

Q 市内に産婦人科
誘致を

藤原 建志 議員



A 誘致に向けた取組を行っていく

- 質問一** 出産された方の状況は。
- 二 近隣の産科の状況は。
 - 三 市のこれまでの取組は。
 - 四 今後の方向性は。
- 答弁一（市長）** 平成27年度に出生し、市の4か月児健康診査を受診した乳児515人のうち、約52人が坂戸・鶴ヶ島管内の医療機関等で出生している。
- 二 近隣では、坂戸市が3件、川越市が9件、所沢市が6件、狭山市が5件、入間市が3件、東松山市が2件、毛呂山町が1件である。
 - 三 包括連携協定を結んでいる銀行や市内外の医療機関等に、本市近傍に開設を希望又は検討している産婦人科医などの情報提供を求め、誘致に向けた働きかけを行ってきた。今後は医師会等を通じて、近隣で産科を標榜する病院に、分



- 娩施設を持たないサテライト型の診療所の設置なども提案したい。
- 四 全国的にも産婦人科医の数が減っており、市内への産婦人科の誘致は難しい。今後も医師会や金融機関、関連する団体などに情報の提供を求め、引き続き誘致に向けた働きかけを行っていく。
- ◎その他の質問
- 一 病児、病後児保育の充実を
 - 二 学校週5日制の見直しについ

Q 東京オリンピックに向けた準備について

高橋 剣二 議員



A 本市の魅力を世界に発信していく

- 質問一** ゴルフ競技の会場となる霞ヶ関カンツリー倶楽部までのプロセス、観客、選手の移動ルートは。
- 二 ルートの道路整備の予定は。
 - 三 宿泊施設や飲食店など相当な経済効果が見込まれるが、どのようなPRを考えているのか。
 - 四 オリピックイヤーには脚折雨乞行事が開催されるが、世界に向けた発信は。
- 答弁一（市長）** 川越市によると、大会関係者の移動は、圏央鶴ヶ島インターチェンジを利用して本市及び川越市の市道を経由し、会場に向かうルートが候補に挙がっているとのことである。観客は、原則として、公共交通機関及びシャトルバスによる輸送サービスを検討しているとのことである。
- 二 埼玉県農業大学校跡地の西側を南下する市道7-2号線を、接続先の川越市道の幅員に合わせて拡幅することを予定している。
 - 三 飲食・宿泊情報やアクセス情報などの効果的なPRについて研究したい。期間終了後も持続可能で、将来的に本市への転入につながるような取組を検討していく。
 - 四 脚折雨乞行事を文化庁の文化プログラムに位置付け、本市の魅力を世界に発信する。市民が鶴ヶ島市を誇りとし、更なる郷土愛や絆を育んでいけるよう取り組む。

